



# みらいつうしん

2月号

2023年2月1日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 勝浦 芳子

## 子どもの心の安定は大人の対応にあり

暦の上では節分を過ぎますと「春」を迎えると言われますが・・・今年の冬は、寒波の影響で大雪に見舞われ立ち往生している地方もあり、川崎市でもかなりの寒さを感じております。大分コロナウィルス感染が減少してきたと言いますが、寒さの厳しさから体調を崩し易くなっているようですので、保護者の皆様に置かれましても十分ご自愛ください。

さて、子ども達の様子を見ていますと、どんな状況においても、日々成長を見せる姿に頼もしさを感じます。にじ組さんは、小学校就学に対する意識がより高まり、ランドセルや机、どこの小学校へ行くのかなどの共通の話題に花が咲き、仲間意識も強くなっています。そら組さんは、もうすぐににじ組さんになるという嬉しさからか、積極的に物事を理解し行動する姿を垣間見ることがあります。ほし組さんも伸び伸びと生活を楽しんでいる中にも約束やルールが分かってきて、友達同士声をかけ合う姿も見られ、ひとつのことに集中する時間が長くなってきました。乳児クラスについても、動きが活発になり、ことばや出来ることが増えたことから、人に伝える喜びを感じて、とても表情が豊かになっています。一人一人の成長が身近に感じ取られ、より愛しさを覚えます。

先日、川崎市の幼児教育研修会が開催され、職員とともに参加いたしました。今回は、桜美林大学の山口創先生の講演を拝聴しました。今回のお話は、「子どもの脳は肌にある」というテーマでした。その中で、乳幼児は、肌に直接触れることの重要性と脳と肌の密接な関係を教えていただきました。スマホの普及で、時折、電車の中で泣いているお子さんをあやすとき、スマホを使って、視覚から情緒の安定を試みる母親を見かけますが、脳と肌が繋がっているとすれば、子どもの情緒には、母親のぬくもりが一番と考えられます。愛着心の定着も、母親と手をつないだり抱っこされることで深まり安定します。これは、肌のぬくもりが心地よいことから、脳に「オキシトシン」という脳により良い神経作用を助けるものの分泌が多くなるからだそうです。「オキシトシン」の分泌は、スキンシップが一番ですが、人に親切にしたり、目を見つめたり、優しい声を掛けたり、五感を快刺激したり、物を分け合ったり、共食したりすることでも、「オキシトシン」の分泌は増えると言われています。子どもの成長には、この情緒の安定が最も大切で、特にこの時期の身近な大人の関わりが重要です。子育ては、とても手がかかり大変ですが、一日10分程度のスキンシップが一生の心の支えになることも実証されています。園内でも、子どもの安心感を大切にしていますが、どうぞ、ご家庭でもスキンシップの時間をなるべくとるように工夫してみてくださいはいかがでしょうか。脳に良い刺激を与えて、お子さんの意欲を高めて、何事にも意欲的に行動できる環境を園とご家庭とで作っていきましょう。

今年度も、あと2ヶ月余りとなりました。暖かい春の訪れはもう少し後になりそうですが、子ども達が安心して楽しく過ごせるよう努めていきたいと思っております。

